



住宅建築に求められる省エネ対策について
紹介した建築研究所の坂本理事長

ハウス・オブ・ザ・イヤー受賞

地球に優しい 省エネ住宅を

室蘭ウチイケが記念講演会

住まいのウチイケ（内池秀光社長）のハウス・オブ・ザ・イヤー受賞記念講演会が18日、室蘭市宮の森町の蓬岫殿で開かれ、ゼロエネルギー住宅など低炭素社会に求められる家造りについて考えた。

約150人が来場。同社が光熱費ゼロを掲げる「エ

コハウス ZERO」が、日本地域開発センターの「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2014」の特別優秀賞をはじめ、3賞同時受賞を果たしたことを記念して開催。東京大学名誉教授で国立研究開発法人建築研究所の坂本雄三理事長が「21世紀の住宅と

地域創生」をテーマに講演した。

坂本理事長は、日本のエネルギー需給の現状と課題、低炭素社会の住宅建築の方向性などを説明。家庭のエネルギー消費の実態は、冷房が占める割合が高いと感じる居住者の実感と違い「暖房と給湯が50%を占め、冷房は数%に過ぎない。熱を大切に、いかに効率につくり出すかが重要」と省エネ住宅の基本として断熱性能の高度化、自然エネルギーの活用を紹介した。

講演に先立つ開会式で内池社長は「これまで培ってきた自信と誇りを持って、低炭素社会の実現に少しでも貢献できるよう、地球環境に優しい家造りに取り組んでいきたい」と決意を述べた。

（菅原啓）

あす文化センターで
リフォームフェア

リフォームフェア室蘭in2015（室蘭組織委員会主催）が20日午前10時から、室蘭市幸町の市文化センターで開かれる。移動ショールームによる最新のキッチンやバスルームを多数展示するほか、I日実演や最新家電の紹介、緑日コーナーも開設する。